

幼子はイエスと名付けられた

ルカ 2 : 15 - 21



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021年1月1日
主イエス命名の日

上野聖ヨハネ教会

「八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。」

ルカ 2:21

今日、1月1日は主イエス命名の日です。

母マリアは天使ガブリエルから「その子をイエスと名付けなさい」（ルカ 1:31）と言われていました。父となることを引き受けたヨセフも、夢で天使から「その子をイエスと名付けなさい」（マタイ 1:21）と命じられていました。

誕生から8日目のこの日、幼子は正式にイエスと名付けられました。

その子の名はイエス。「イエス」とは「主（ヤハウエ）は救う」「神は救い」という意味です。主なる神の救いをこの世界にもたらすために生まれた幼子の名前はイエス。イエスの名はマリアから愛をもって呼ばれ、ヨセフから愛をもって呼ばれ、隣人たちから愛をもって呼ばれました。

ところでこのイエス命名の出来事を伝えるルカ福音書の中で、直接このイエスの名を呼んだ人たちがいます。その中から今日は3人の人に注目してみます。

第1は、会堂の中、礼拝の最中でした。カファルナウムの町

の会堂礼拝でイエスが説教をしておられる最中に、ある男が大声で叫びました。

「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」ルカ 4:34

イエスを慕い求めて叫んだものではありません。反対に憤りと憎しみをもってイエスに叫んだのです。この人は、イエスの言葉によって自分の深い所が脅かされるのを感じたのです。自分の奥深い所にある闇——それは神への反抗や人と自分への憎しみといったものかもしれません——がイエスによって暴き出されるのを感じた。

「正体は分かっている。神の聖者だ。」

イエスの本質をはっきり認識しています。しかしそのイエスに救いを求めるのではなく、イエスを拒絶して追い払おうとします。ルカ福音書はこの人のことを「**汚れた悪霊に取りつかれた男**」（ルカ 4:33）と表現しています。闇の力がこの人を占領しているのです。

これに対してイエスは「**黙れ。この人から出て行け**」とお叱りになった。すると「**悪霊はその男を人々の中に投げ倒し、何の傷も負わずに出て行った**」（4:35）。

闇の支配は打ち砕かれ、この人は解放されました。こうしてこの人は、深いところから癒されたのでした。これがイエスの

名を呼んだ第 1 の例です。

第 2 は道端です。エリコの町の道端で物乞いをしていた盲人が、イエスが通られると知って叫びました。

「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください。」

ルカ 18:38

先に行く人たちが彼を黙らせようとしてしました。しかし彼は叫び続けます。今を逃せば、二度とイエスに会える機会はないかもしれない。

イエスは立ち止まって彼を呼ばれました。

「何をしてほしいのか。」

「主よ、目が見えるようになりたいのです。」

するとイエスは言われました。

「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」

彼は見えるようになってイエスに従っていきます。

「盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。」

ルカ 8:43

彼の喜びと賛美は周りの人々を巻き込みました。

第 3 は死刑場、ゴルゴタです。イエスと一緒に十字架にかけられた犯罪人の一人がイエスの名を呼びました。

「イエスよ、あなたの^{みくに}御国においでになるときは、わたしを思い出してください。」ルカ 23:42

死のうとしつつある人の最後の願いです。彼の人生はこのように無残な終わり方をする。彼の名は極悪人として覚えられ、そしてやがては人々の記憶から消え去っていくでしょう。自分の人生に何の意味があったのか。けれどもイエスよ、あなたがわたしのことを忘れずに思い出してくださるなら、それで十分なのです。

イエスは答えて言われます。

「はっきり言うておくが [直訳=アーメン、あなたに言う]、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる。」ルカ 23:43

ルカ福音書の中からイエスの名を直接呼んだ3人の人の思いと声を聞きました。

ひょっとしたらこの3人それぞれの中に、わたしがいるかもしれません。あの会堂礼拝の中で叫んだ人のような恐怖や憎しみではなくても、わたしも不満や怒りをもってイエスを呼ぶことがあるかもしれない。信じて生きてきたのに、どうしてこんなことがあるのかと。

あのエリコの盲人のように、わたしたちも、今このときに聞いてほしい、答えてほしいとイエスを呼ぶことがあるでしょう。

そしてだれにも理解されない孤独や孤立を経験することがあったとしたら、ただイエスさまだけにはわかってほしい、わたしを忘れないでほしいと、イエスの名を呼ぶことがあるかもしれません。

気づかされるのは、病を抱えた人、苦しみを抱えた人、殺されて死のうとする人——このような人たちが切にイエスの名を呼んだ、ということです。正しい人とは限りません。反抗する人、憎しみをもって叫んだ人たちもいる。しかしいずれの人も、イエスの名を呼ばずにはおれなかった。そしてイエスの名を呼んだ人たちを、イエスはだれひとり無視されませんでした。イエスの名を呼んだ人を、イエスはある場合には叱りつけ、ある場合には簡潔に指示を与え、ある場合には天国を約束されました。いずれも真心と愛によるものです。

今日、わたしたちが決意したいことがあります。イエスの名を呼ぶことです。イエスの名を呼ぶわたしたちを、イエスが呼んでくださいます。呼び、呼ばれることからイエスさまとわたしたちの関係が深まります。

イエスの名を呼び、またその名を広めていきたい。それがこの年の初めの願いです。

祈りましょう。

主イエスさま、あなたの名を呼ばせてください。整わないままであっても、好ましくないものを自分の中に抱えたままであっても、あなたの名を呼ばせてください。あなたはわたしたちの呼ぶ声を見捨てず、必ず答えてくださいます。あなたの名を呼び、またあなたから呼ばれて、あなたとわたしたちの関係が深まるようにしてください。そしてまた、あなたの名を広めるわたしたちにしてください。幼子としてわたしたちのところに来られた尊いあなたのみ名をほめたたえます。アーメン